

言語活動の充実をめざして  
～コミュニケーションへの意欲を高める授業づくりから～

美馬郡つるぎ町立半田小学校教諭 島崎 裕也

## 1 はじめに

つるぎ町半田は、美馬郡の西部に位置し、東みよし町に隣接している。吉野川中流に注ぐ半田川が成す盆地の中にあり、恵まれた自然環境のもと、「文化の町」・「教育の町」を標榜してきた地域である。本校は半田地域の中心に位置し、現在児童数は127名、学級数は8学級であり、年々児童数は減少傾向にある。保護者の教育に対する関心は高く、特に学力の向上に対して強い関心を示している。PTA活動にも協力的である。

本学級の児童(男子12名、女子9名 計21名)は、とても明るく何事にも前向きに取り組むことができる。4月に実施した外国語アンケートでは、ほとんどの児童が「外国語は将来のために必要」と思っていることが分かり、7割の児童が「外国語の授業が好き」と回答した。その理由には「外国のことを知るのがおもしろい」や「英語で質問するのが楽しい」などがあった。一方で3割の児童が否定的な回答をしており、「どう会話をすればいいかわからない」「英語でのやりとりが苦手」などがその理由に挙げられていた。この結果から外国語でのコミュニケーションに、不安や緊張感をもっている児童が多いということがわかった。授業中にも、やりとりの場面になると消極的になったり、相手への反応の仕方に戸惑ったりしている様子が見えられた。

今回の学習指導要領改定により、小学校外国語科の目標には、「言語活動」を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することが求められており、「言語活動」が授業づくりへのキーワードとなっている。また、その「言語活動」については、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動」と研修ガイドブックに定義づけられている。こうした点から本学級の実態を考えると、まず、英語を用いたコミュニケーションへの抵抗感を軽減し、英語で交流する楽しさを実感させることから始める必要性を感じた。

こうしたことから、互いの思いを受け止めようとする学級づくりとともに、児童が自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしたいと思えるような授業づくりを通して、言語活動の充実を目指したいと考え、本研究に取り組んだ。

## 2 取り組みの実際

### (1) コミュニケーションへの意欲を高めるための手立て

次の5点に留意し、授業実践を進めることとする。

#### ①会話を継続させることへの意欲づけ

コミュニケーションは、話し手と聞き手の双方向のやりとりで成り立っている。話し手には、自分の思いを相手に伝えたいという意識をもち発話する力を、そして、聞き手には、話し手の思いを受けてとめ、反応を返したり質問したりしながら会話を継続させる力を養いたいと考えた。そこで、まずは、あるテーマについて日本語で自由に会話をさせ、その際、

どのように反応したり相づちをうったりしているかを確認し合い、それを I see. や Great. など英語の表現につなげるようにする。加えて、活用できる既習の表現やジェスチャー（相づち、表情など）リアクションの言葉をカード化して提示し、会話に取り入れやすいようにする。



【表現・リアクションカード】

### ②段階的なモデルの提示

ALT と HRT など指導者だけではなく、指導者と児童、そして児童同士へと、段階的にモデルを示すようにする。そうすることにより、どのように活動すればよいかについてイメージがもちやすく、「自分にもできそう」「やってみたい」という思いが高まると考えた。また、話し手がかわるとともに多様な会話場面が展開され、それを見聞きすることにより、児童の言語活動が豊かになると考える。



【HRT と ALT によるモデル提示】



【ALT と児童によるモデル提示】

### ③コミュニケーションへの意欲を高める単元計画や活動の工夫

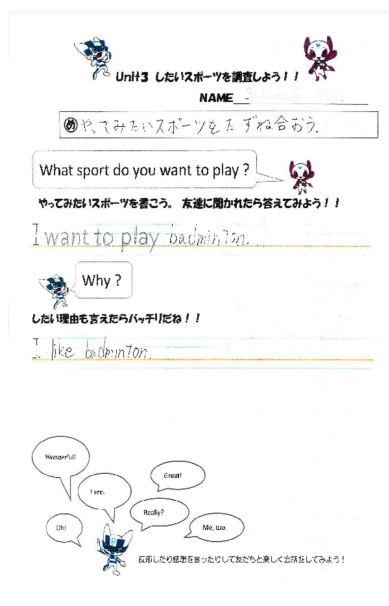
外国語の授業や英語を用いたコミュニケーションに苦手意識がある児童が「やってみたい」と思うような授業にするためには、児童の興味・関心に沿ったものにするのが肝要であると考えた。そこで、「学級のみならず一緒に活動することが好き」という本学級児童の実態を踏まえ、「学級でしてみたいスポーツのランキングを作ろう」「人気があったスポーツをALTの先生と実際にみんなでやってみよう」という独自の単元ゴールを設定する。それを児童と共有することで、活動への意欲を高めると同時に、コミュニケーションに目的意識や必然性が生まれ、より主体的な活動が期待できると考えた。



#### ④教材・教具の工夫

児童が思わず、聞きたくなったり、やってみたくなったりするように、指導者のインタビュー動画や自作のクイズなどをパワーポイントで作成するなどして、児童に提示した。また、授業で活用するワークシートにも工夫を加えた。本単元では、教科書に提示されているいくつかのオリンピック・パラリンピック競技に加え、本学級の児童の興味がわくような競技を付け足し、たくさんの競技の中から選択できるように工夫した。また、英語での会話に不安をもつ児童が自信をもって学習に臨めるよう、ワークシートにやりとりのヒントを提示した。

【Who am I? クイズ掲示】



たくさん聞けたね!!  
まだまだ聞ける人は、下にも来てみよう!!

	Mika	Sajia	Saki	Umi	Miyuki	Asumi
Dodgeball						
Swimming						
Soccer						
Volleyball	○		○	○		
Badminton		○				
Basketball						○
Sepaktakraw						
Skateboard					○	

#### ⑤児童の情意面や目標への達成状況の把握や学びを深めるための工夫

授業中の行動観察等による形成的評価を大切にするとともに、授業の終わりには「振り返りカード」を活用する。児童ががんばったことや十分でないと感じていることを指導者が理解するとともに、児童の学習状況を把握し、授業改善に活かす。また、外国語に関する児童の思いや願いなどの実態を踏まえた授業づくりに活かすため、アンケートを実施する。さらに、活動途中で中間評価の場面を設定し、よかった点や困った点等を学級全体で共有し、学びを深める機会にした。



【中間評価の場面】

(2) 授業の実際

① 単元名 Unit 3 What do you want to watch? (Here We Go! 6)

～見たいスポーツは何？やってみたいスポーツは何？～

② 単元の目標

・見たいスポーツややってみたいスポーツについて尋ねたり答えたりする表現などを理解し、具体的な情報を聞き取ったり、たずねたり答えたりすることができる。

【知・技】

・お互いのことをよく知るために、見たいスポーツややってみたいスポーツとその理由などについて、たずねたり答えたりして考えや気持ちなどを伝え合うことができる。

【思・判・表】

・お互いのことをよく知るために、見たいスポーツややってみたいスポーツとその理由などについて、たずねたり答えたりして考えや気持ちなどを伝え合おうとする。【態度】

③ 単元計画

時	目標 (■) と主な活動 (○)	知 技	思 判 表	態 度	◎評価規準 (方法) ※指導・学習改善のための 評価
1	<p>■スポーツの言い方に慣れ、アニメーションの話の概要を理解する。</p> <p>○歌</p> <p>○Small talk</p> <p>○オリンピックに興味をもつ動画を見る。</p> <p>○【Let's play】ポインティングゲーム</p>				本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
2	<p>■あるスポーツが見たいかどうかたずねたり答えたりする言い方を知り、具体的な情報を聞き取ることができる。</p> <p>○Small talk</p> <p>○【Let's watch】ニックが見たいスポーツ</p> <p>○【Let's listen】スポーツ番組の録画予約</p> <p>○【Let's chant】Do you want to watch wrestling?</p> <p>○【Let's play】カードを使って見たいスポーツを当てる</p>	聞			本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
3	<p>■あるスポーツを見たいかどうかをたずねたり答えたりすることができる。</p> <p>○【Let's chant】Do you want to watch wrestling?</p> <p>○【Let's play】カードを使って見たいスポーツを当てる</p> <p>○【Let's try】指定されたスポーツを見たい友達を探す</p> <p>○【Let's write】先生が指定したスポーツを1つ書く</p>		や		本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。

4	<p>■見たいスポーツが何かをたずねたり答えたりする表現を知り、具体的な情報を聞き取ることができる。</p> <p>○Small talk</p> <p>○【Let's chant】 I want to watch rugby</p> <p>○【Let's play】 予想当てゲーム</p> <p>○【Let's write】 自分が見たいスポーツを1つ書く</p>	聞		◎見たいスポーツが何かについて、具体的な情報を聞き取っている。(行動観察・振り返りカード点検)
5	<p>■お互いのことをよく知るために、見たいスポーツとその理由などについて、たずねたり答えたりすることができる。</p> <p>○【Let's chant】 I want to watch rugby</p> <p>○【You can do it】 見たいスポーツ調査</p> <p>○【Let's write】 自分が見たいスポーツを1つ書く</p>	や		◎見たいスポーツが何かをたずねたり答えたりしている。(行動観察)
6	<p>■友達やALTのやってみたいスポーツをたずねる表現を知るとともに、具体的な情報を聞き取ることができる。</p> <p>○【World tour】 活躍する選手の話</p> <p>○【Let's chant】 既習の2つ</p> <p>○やってみたいスポーツのたずね方を知る。</p> <p>○やってみたいスポーツを聞き取ろう。</p> <p>○【Let's write】 自分がやってみたいスポーツを1つ書く</p>	聞		◎やってみたいスポーツについて、具体的な情報を聞き取っている。(行動観察・振り返りカード点検)
7 (本時)	<p>■お互いのことをよく知るために、やってみたいスポーツとその理由などについて、たずねたり答えたりして考えや気持ちなどを伝え合うことができる。</p> <p>○やってみたいスポーツとその理由をたずね合う。</p>	や	や	◎やってみたいスポーツとその理由などについて、たずねたり答えたりして伝え合っている。(行動観察・ワークシート・振り返りカード)
				◎お互いのことをよく知るために、やってみたいスポーツやその理由などについてたずねたり、答えたりして考えや気持ちなどを伝え合っている(行動観察・ワークシート・振り返りカード)
				◎お互いのことをよく知るために、やってみたいスポーツやその理由などについてたずねたり、答えたりして考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。(行動観察・ワークシート・振り返りカード)

④ 本時の学習

ア 目標

お互いのことをよく知るために、やってみたいスポーツやその理由などについて、尋ねたり答えたりして考えや気持ちなどを伝え合うことができる。

イ 展開

時間	児童の活動	指導者の活動		指導上の留意点 ◎評価規準〈方法〉
		HRT	ALT	
3分	・挨拶をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶する。</li> <li>・個別に数名の児童に挨拶する。</li> </ul>		・英語で挨拶し、楽しい授業の雰囲気を作る。
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズをする。</li> <li>・Small talk をする。</li> <li>・本時のめあてをつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容に関するクイズをする。</li> <li>・校内の先生とやりとりをする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習表現を活用しながら、質問する。</li> <li>・ランキングに入ったスポーツを体育や学活の時間に実際に行うことを確認し、目的をもった活動にする。</li> <li>・テンポよく、楽しみながら表現を確認するようにする。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     やってみたいスポーツをたずね合おう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてをつかませる。</li> </ul>		
10分	・活動の仕方やワークシートの書き方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HRT と ALT で活動の例を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューやワークシートの記入の仕方を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が自信をもって、本活動に取り組めるよう、個に応じた支援をし、次の言語活動につなげる。</li> </ul>
5分	ペアでインタビューする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・となり同士で行い、困り感などを共有し合い、次の活動につなげる。</li> </ul>
10分	ペアやグループでインタビューする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューの際に気をつけることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の言葉を英語で言い換える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価の場面では、好例を示したり、聞き方がわからなかった表現やうまく伝えられなかったことを全体で共有したりして、後半の活動での学習改善につなげる。</li> <li>・既習事項が使えるようにする。</li> <li>◎やってみたいスポーツやその理由などについて、たずねたり答えたりして考えや気持ちなどを伝え合っている。(行動観察・ワークシート・振り返りカード)</li> <li>◎お互いのことをよく知るために、やってみたいスポーツやその理由などについて、たずねたり答えたりして考えや気持ちなどを伝え合っている。(行動観察・ワークシート・振り返りカード)</li> <li>◎お互いのことをよく知るために、やってみたいスポーツやその理由などについて、たずねたり答えたりして考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。(行動観察・ワークシート・振り返りカード)</li> </ul>
7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りをする。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューについてコメントする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よかったことや感想を話す。</li> </ul>	

### 3 成果と今後の課題

#### (1) 成果

- ① 段階的にモデルを掲示しながらスモールトークなどの活動を継続することで、児童の会話に少しずつ変化が出てきた。これまでは ALT や HRT の言葉をリピートすることに終始する姿が多かったが、既習の表現に加え、会話の中に”Me too”や”Really”などの簡単なリアクションを積極的にしたり質問をしたりする姿が見られ、会話の内容が深まってきた。また、やりとりを繰り返し行うことで、”What do you want to~? ”などの表現が定着するとともに、自身をもって発話することができるようになった。児童の活動中の表情からも英語での会話の楽しさを実感している様子が見取れた。さらに、目的や場面、状況に応じて、既習の語彙や表現を活用して会話をより深めようとする児童が増えたことは大きな成果である。



【授業中の様子】

- ② 振り返りカードを活用することで、授業中には発言できなかった児童の思いやがんばり、つまずきを知ることができ、評価や授業づくりに生かすことができた。改めて振り返りカードの意義を再確認した。振り返りカードには「友達に分かりやすく伝えることができた。」や「リアクションをがんばった。」など相手を意識し互いにやりとをしようとする児童がたくさんいたことも分かった。主体的にコミュニケーションを図る児童の育成に向け大きな一歩となった。



【振り返りカードを書く様子】

- ③ 目的意識をはっきりもたせることで、児童一人一人が自分の学びを自覚し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意識が高まった。これまでは ALT や HRT の言葉をリピートすることに終始する姿が多かったが、本単元では、児童の方から表現に関して質問する姿がたびたびみられるようになった。既習の単語やフレーズを生かして伝えようとしたり、会話をつなぐリアクションを積極的に取り入れたり、会話をより深めようとする児童が増えたことは大きな成果である。例えば、友達のしてみたいスポーツを尋ねる導入時に実際にスポーツを行うことを伝えると、「やりたいはどうやって英語で言うのだろう? 」という疑問から「見るは watch だから、したいは play を使えばいい。」と発想し、児童の力で「I want to play~」のフレーズをつくることができた。今まで学習したことを生かし、自分たちで考えて表現を導き出すことができた。学習のゴールをもたせることで、目的意識が自覚され、学習課題をより自分のこととして捉え学習に臨めたことが効果的であったと考える。英語のやりとりに不安があった児童も、指導者や

友達のやりとりを見たり聞いたりしたり、児童の良かったところを全体で共有したりする活動を通して、具体的にモデルとなる姿を見ることができ、安心して活動に取り組むことができた。

- ④ 10月に行ったアンケートでは4月のアンケートと比較して外国語が好きと答えた児童が7割から8割に上がっていた。その他にも「友達との英語でのやりとりが楽しい」や「英語で自分のことを伝える」の項目も楽しいと思う児童の割合が増えていた。

外国語を使うことの不安がなくなり、外国語を使うことに自信をもつ児童が増えたと感じる。

- ⑤ 指導者の側の成果として、授業作りの大切さを実感ができたことが挙げられる。昨年度までは外国語の授業をするにあたっては、指導書通りの授業をすることに固執し過ぎていた。児童の興味に沿うような授業ができていなく、指導者自身にも不安があった。

今回研究をするにあたって、目の前の児童をよく見つめ、児童の興味・関心を踏まえた授業作りを行うことで、児童はもちろん、指導者も英語を楽しむ授業をすることができた。

## (2) 課題

- ① 本単元で学習した表現は、自信をもって使うことができていたが、既習の表現などをコミュニケーションに活かすことは、まだ十分とはいえない。これからの学習でも、スモールトークなどで繰り返し学習を積み重ねていく中で定着するように支援していきたい。

- ② 外国語の授業やコミュニケーションに対して、まだ苦手意識をもつ児童がいる。そうした児童に対しての指導方法を工夫する必要があると感じた。アンケート結果から「単語やフレーズを覚えることが難しい」と感じている児童もいたので、さらにコミュニケーションの土台となる仲間づくりや英語でのやりとりの楽しさを味わいながら生き生きと活動できる授業づくりに努めたい。

- ③ 指導者自身が児童と共に学ぶ姿を大切にしながら、英語の運用能力を高められるよう研鑽を積みたい。また児童一人一人が意欲的に学び、言語活動が充実する授業づくりについて研究を深めたい。

## 4 おわりに

本研究では、児童が外国語に親しみ、外国語でのコミュニケーションによって得られる喜びや楽しさを実感できる授業づくりに取り組んだ。児童の実態や思いを踏まえた授業づくりが、児童一人一人の学習意欲を高め、さらには主体的な学びにつながることを確認できた。

今後も、児童が主体的・意欲的にコミュニケーションを図ろうとする授業づくりに努め、互いの考えや気持ちを伝え合うコミュニケーションのツールとして外国語を楽しんで学ぼうとする児童の育成に向け、実践を積み重ねていきたい。